木造仮設住宅の骨組みを手掛けた建築工学科の訓練生ら＝24日、さつま町の宮之城高等技術専門校

災害時の手作業任せて

木造仮設骨組み試作

宮之城高技専2年生

移動編集局 さつま町ウィーク

県立宮之城高等技術専門校（さつま町）建築工学科の2年生が、災害時用の木造仮設住宅の骨組み造りに挑んだ。県産材を使い、加工から組み立てまで実施。復興現場で活躍できる大工の育成も狙う。

林業や建築業界などの団体でつくる県木造住宅推進協議会が依頼し、スギ材6・2立方㍍を提供。関係機関で作成した図面を基に、3人世帯向け2DK、約30平方㍍の平屋1戸を試作した。

訓練生は19～35歳の男女15人。8月下旬から、木材に墨を付け、手作業で加工する手刻みに取り組んだ。「災害で、プレカット工場が止まった事態も想定した」と指導する上村大作技術主査(41)。

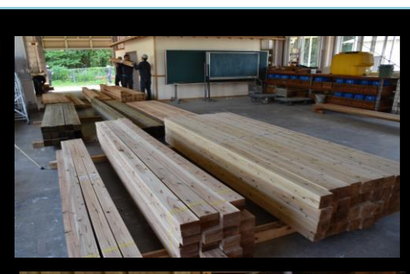
骨組みは24日に出来上がった。訓練生の岩川亮太さん(24)は「手で加工する経験は、増改築やリフォームの現場でも生かせそう。臨機応変な対応ができる大工になりたい」と話した。

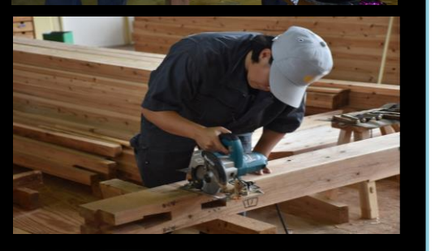
完成を見届けた全国木造建設事業協会鹿児島県協会の福迫健会長(60)は「丁寧な仕事ぶり。各地で災害が起きる中、いざというときにこの訓練が役立てば」と期待を寄せる。

今後はいったん解体して10月、県民交流センター（鹿児島市）でプロの大工が組み直し、18～20日の「かごしま住まいと建築展」に展示する予定だ。

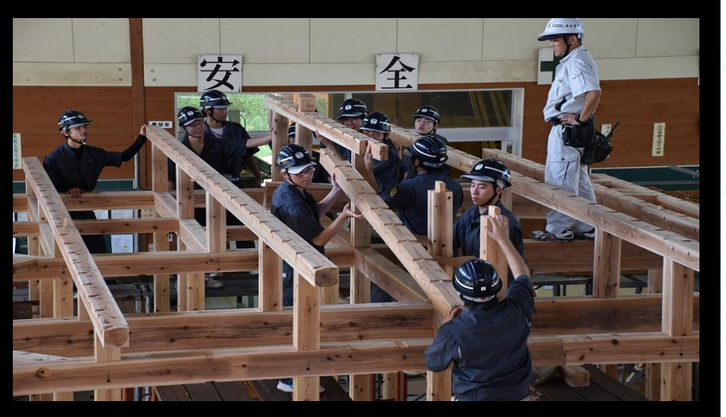
木造の仮設住宅は居住性が高く、地元林業の振興にもつながるとして、東日本大震災を契機に注目を集めた。（本坊弓子）

南日本新聞掲載記事　2019年（令和元年）9月26日





宮之城高技専



木造仮設の骨組み完成

建築展で展示披露

宮之城高等技術専門校の訓練生らが、木造仮設住宅の骨組みを造り上げた＝**写真**＝。製作期間は約3週間。建築工学科2年生15人が授業の一環で手掛けた骨組みは一度解体され、10月に開催されるかごしま住まいと建築展で展示される。

資材提供などを行ったのは県建築協会（中村明人会長）と全国木造建設事業協会鹿児島協会(福迫健会長)。「仮設住宅はプレハブ構造をイメージしがちだが、住み心地の良さで優る木造の仮設住宅を若い世代に知ってほしい－」との思いから支援を行った。

住宅は、県内の良質な木材を使用し、通常のプレカット加工では施さない金輪継、尻ばさみ継、登り梁など従来の工法が用いられている。より実践的な授業を通じて訓練生の松元勇樹さんは「手作業は繊細さが必要で大変だったが、学ぶことが多かった」と振り返り、島崎遥香さんは「こんなにスケールの大きい建築は初めて。みんなと作業できて楽しかった」と笑顔を見せた。

かごしま住まいと建築展は10月18日から3日間の日程で開催。協力団体の関係者らは「木造仮設住宅の認知度を広めていきたい」と話した。

鹿児島建設新聞掲載記事　2019年（令和元年）9月27日

かごしま型木造応急仮設住宅

■Data
依頼主／鹿児島県建築協会
　　県木造住宅推宅協議会
種　別／木造仮設住宅
面　積／30 ㎡

■Schedule
工　期／令和元年8下旬～ 9月

■Trainee
大工工事／建築工学科 14期生

2019　木造建築施工現場実習

鹿児島県立宮之城高等技術専門校
Kagoshima Prefectural Miyanojyou Technical Training School